

令和2年度第3回 淀川区区政会議 議事要旨

日 時：令和3年3月10日（水） 午後6時29分～午後6時42分
午後7時35分～午後8時37分

場 所：淀川区役所 5階 会議室

出席者：

- ・ 委員（22名中19名出席）
増田委員、田中委員、渡土委員、浅井委員、堀委員、米田委員、福岡委員、杉本委員、中井委員、奥委員、米山委員、西澤委員、英委員、川合委員、中本委員、光在委員、泉水委員、永野委員、中道委員
- ・ 区役所
山本区長、中喜多副区長、西総務課長、久保政策企画課長、畑中市民協働課長、井上教育支援担当課長、武田保健・子育て支援担当課長
松尾政策企画課長代理、山崎市民協働課長代理、舟木相談調整担当課長代理、佐多教育支援担当課長代理、矢野福祉担当課長代理、大畑保健副主幹、森川保健副主幹、藏本政策企画課担当係長 ほか

内 容：

1. 開 会
2. 区長あいさつ
3. 議 題
 - (1) 令和3年度淀川区運営方針(案)について
 - (2) 新型コロナ禍における地域活動について
 - (3) 区政会議の運営（部会・公募委員定数）について
4. その他

資 料：

【当日配布資料】

- ・ 次第
- ・ 区政会議委員名簿
- ・ 座席表
- ・ (資料3) 令和3年10月以降の区政会議運営について
- ・ (資料4) 淀川区令和3年度区長自由経費予算事業一覧
- ・ (資料5) 「地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業」及び「淀川区地域福祉推進ビジョン(淀川区おせっかい共和国宣言)」について

- ・よどマガ3月号

【事前配布資料】

- ・(資料1) 令和3年度 運営方針重点的に取り組む主な経営課題(概要版)案
 - ・(資料2) 区政会議アンケート結果
-

1. 開会

2. 区長あいさつ

(各部会開催)

3. 議題

(1) 令和3年度淀川区運営方針(案)について

○教育・子育て部会の意見要旨(発表者:英委員)

- ・ヨドジュクは、受講生を増やす努力はどのように行っているかということについて、コロナの影響もあり、受講生が少ない状況。小学校6年生を対象にしたチラシの配付や広報誌への掲載などでPRし、春休み体験入塾を行っている。
- ・自宅から遠いから通えない、という声も聞く。それに対し、受講生が増えないと会場を増やすことはできない。受講生が減ると、事業者が応募してくれなくなる。
- ・生徒数の多い学校の近くに会場をつくることについては、市場調査をしていないが、地域によっては既に塾が多くあり、そちらを利用している生徒もいるのではないかと、ということだった。
- ・小学生補習充実は、対象は17校中12校ということであるが、17校全校で取り組むことについて、指導員が少ない、学校とのマッチングが困難な状況であった。
- ・学校によって実施している内容が違ってしまうように思われる事については、積極的に自分から来ている子どもたちもいるし、親に言われて来ている子どもたちもいるという状況。方向性としては、小さいうちから机に向かうという学習習慣を身につけるとするのが基本の考え方である。
- ・プレパパ・ママ等ファミリー子育て教室は、コロナ禍だが、人気のある企画なので日程調整して実施をしていきたい。
- ・地域子育てサロン助産師巡回相談は、コロナ禍の運営で、助産師との日程調整の関係があるので、計画があるのなら早めに言ってもらったほうがありがたい。
- ・子育て支援事業では、ママたちにはマスクをしてもらっているが幼児は基本し

ていない。小学生や幼稚園の子どもは親の考えです、しないを判断してもらっている。子どもはどちらかという表情が見えないのでマスクをしないほうがいいんじゃないかという意見も出ていた。

- ・実施状況をビデオ撮影したものや、参加者からのアンケートの意見をまとめたものを活用したら実施している内容が伝わると思う。

○安全・安心なまち部会の意見要旨（発表者：増田委員）

- ・飲料水や食料などを3日以上備蓄することが本当にやっていけるのかというような話し合いがあった。町会の掲示板等より、スーパー等の店舗にチラシが掲示されている方が効果があるのではないかという話も出たが、そのような内容で一企業と協定を結ぶことは難しいという話があった。
- ・野中地域では地域内の企業が、緊急事態宣言下で、フェイスシールドやマスク等を寄付していただくというすごくいい関係性を構築している。
- ・3日分の備蓄セットを区役所で販売してはどうかという、すごい画期的な案がでた。今、何人が備蓄しているということがわかるようになる。また、「よどマガ!」等で例えば毎年4月に広報すれば、購入者にとっては買い替えの時期がわかるし、購入者に直接防災情報を出したりできるのではないか。
- ・淀川区ではワンルームマンションが多く、そこでは3日間の備蓄が難しくできない場合があるかもしれないので、管理会社に備蓄をよびかけた方が効果的ではないか。塚本では、災害に取り組んでいるというマンションがある。今はマンションを販売する時に、災害リスクやハザードマップを提示して、「ここにはこんなリスクがある」ということを説明することが必須になっているという話があった。マンションの管理組合や不動産会社と災害時協力業者の協定を結ぶのが有効ではないか。
- ・三津屋地域では1日から2日の備蓄を町会でしている。これからは商店街や企業と連携して備蓄をしていく。
また、三津屋地域では、近隣の地域とも合同で防災訓練を実施できるよう調整していきたいということなので、今後そのような動きがあると共助も強くなる。
- ・地域における要援護者名簿について、限られた人しか見れなくて、活用できておらず、必要な人に情報が届いていないという話があった。
- ・ちょっとしたおせっかいができる人を増やしていくということは、要援護者名簿の閲覧とリンクしているのではなく、困った人がいたら積極的に声をかけたりするという人を増やして、将来的には地域の中で見守りをし合えるような地域をつくっていくという話があった。

○「コミュニティ力向上部会」の意見要旨（発表者：奥委員）

- ・市民活動の理解促進では、アンケートの質問の文言を変えると数値を比較できなくなる。
- ・「よどマガ!」で、毎回、「地活協って何?」を掲載されていて、認知度が増えているというのは実感していて、数値としても出ている。地域活動協議会がどういう活動をしているのかということを知っていただくために、地域活動協議会が行っている行事、活動を紹介しながら、「地域活動協議会を知っているか」を聞いていくことが必要。
- ・ホームページやSNS等での地域活動にかかる情報発信について評価しながら、毎年比較し、それを成果として数値目標にしていくことが理想。
- ・窓口サービスの星一つ、星二つの話は、星の数が多いにこしたことはないが、個人的にはサービス業になってしまっても仕方がないと思うので、あまり一喜一憂してほしくはないと思っている。
- ・職員の皆さんがやりがいをもって、誇りを持って仕事をしてもらえたらいいと以前の区政会議で意見させていただいたことを受け入れていただいて、職員を表彰する仕組みを考えていくという話があった。区政会議の中で提案したことを吸い上げて実践していただいているというのが一つあったことをご報告しておきたい。

（２）新型コロナ禍における地域活動について

○発表要旨（福岡委員）

- ・西中島地域でのコロナ禍におけるコミュニケーションのとり方としては、対面のコミュニケーションでは工夫してソーシャルディスタンスをとる。他には、役員間のグループLINEの活用、E-MAIL。決議が必要な場合は書面ですするという形をとっている。
- ・ZoomやTeamsでのウェブ会議は、パソコンを持ってない方もおられるのでまだできていない。
- ・通常、西中島地活協の理事会は、西中島センターで開催しているが、緊急事態宣言時は使用できなかったため、書面を行うという形となった。
- ・西中島の理事会は理事の半数以上が出席して出席理事数の多数決で議決するという形をとっている。書面での場合でも、多数決でする形をとった。理事に資料と、賛成か反対か意見を書いていただくものを回収し、多数決で行った。多数決だが、反対意見を書かれた方には、役員からグループLINEやメールで説明し納得いただき、一応全員の賛同を得られたという形になった。
- ・書面決議や電磁記録での決裁をしている団体は、大体全員賛同を条件にしているところが多いそうだ。なぜかと言うと、出された案件に対して、個別に賛成か反対かという意見を求めるわけなので、集まって審議をして話し合っ自分

の意見を決めるということができない、そのためおそらく全員賛同という形をとっているのではないかと思う。西中島としては、電磁式にしても書面にしても、多数決にするのか全員賛同にするのかを、今後、理事会で審議をして規約を変更していく予定である。

○発表要旨（増田委員）

・新東三国地域では、10月24日に、地域住民全員に呼びかけ、場所は地域全域と社会福祉会館（仮の本部）で、「まちなか安否確認訓練」を実施した。内容は安否確認用の黄色いタオルを掲揚してもらい、タオルの掲揚状況をグループLINEに報告してもらい、本部で掲揚数を集約して区の本部に連絡するというもの。

・まず自分の身を守る、その後は自分の身が安全だ、救助は他の人の所に行って、という近助の取組として自分の安否を周りに知らせ、それを町会単位で集約し、共助である本部で集約し、どこに一番早く救助に行かなければいけないかという指示を出す。その状況を区の本部に連絡するという、自助、近助、共助、公助のバトンを確実に渡せるように、それを集まらずに行った。

・Googleマイマップに写真をどんどん入れていく予定だったが、なかなか動かず、写真を2枚3枚重ねていくと飛んでしまったりして、リアルタイムに写真をはるという作業はできなかった。そういうことがわかった。

・リアルタイムにできたことは、LINEで情報が入ってきたものを、役員各々が、Googleマイマップに写真を入れる、出力した写真を地図に落としていくという作業等をみんなで同時に素早く行うことができた。

・3,000世帯にタオルを配り、800世帯のカウントができた。約25%の掲揚率になった。必ずしも高いというわけではないが、いつもやっている小学校の防災訓練の倍ほどの参加率で一定の効果を得られた。

・LINEやGoogleマイマップだからできたのではなくて、地道な活動があった。タオルに、のしのかわりにA4のチラシをみんなで張りつけ、役員がリヤカーで運び、そこで町会長に当日の流れの話をし、全ての町会ではないが町会長が丁寧に班長会議で話をしたり、チラシをまいたりしてくれた。その結果、掲揚率が高い町会もあり、成功の影にはこのようなアナログな活動があると思っている。

・2月には「避難所運営訓練」を実施した。新東三国地域は、9割が集合住宅で、コロナ禍の中、在宅避難を考えていかなければいけないということから、在宅避難をしているところに津波が来て、1階2階の人には3階以上に上がってもらおうというシミュレーションの訓練を行った。その状況の中で在宅避難者と被害状況と、垂直避難が終了したかどうかを、グループLINEで入れるということ

をした。

・G o o g l e マイマップに、橋にひびが入っていて通行止めになっている場所や、交通事故が起こっていて通行止めになっている場所を入力し、「町会に通行止めと貼り紙をして」等を指示するというやりとりを行った。この際もG o o g l e マイマップがサクサク更新できず、もう少しブラッシュアップしたいと思っている。

・私たちはテレビ会議カメラを使っていたので、この訓練の様子を区役所の防災担当がパソコンで見ることができ、M i c r o s o f t T e a m s のチャットでやりとりをすることができた。M C A 無線だと、「何々町会が何名で、被害状況が何」と口頭で伝えて、それをメモすることになるが、チャットだと、あっという間に写真を送ることができる。M i c r o s o f t T e a m s のようなテレビ会議のシステムを使うと、音だけではなくて目でも一瞬にして状況を把握できるというメリットがある。このために発電機を用意したり、W i - F i 環境を整えたり、電気が使用できるのであればできる限り通信機能を使おうという取り組みをした。

・コロナ禍で気づいたことは、今までやったことはコロナがなくても必要な視点であった。感染症対策の計画も立てていかなければいけない。情報共有はやはり参加者だけではなく地域住民全員との共有が大事だった。そういうことで地域全域を対象にしているという意識、これはコロナ禍がなくても大事なことだったということに気づいた。これらの取り組みを通じて、コロナのおかげで私たちはたくさんのことができるようになったと思っている。

・タオルをかけているのは、「私は安全です」という意味でのタオルなのか？タオル自体は全戸に配布されたのか？（田中委員）

⇒予算の関係で全戸には配布ができず、町会加入者に、町会ごとに出してもらった。町会に加入していない、マンションごと町会に加入していない所には訓練のご提案ができなかった。マンションの中で町会に加入していない、加入しているというばらつきがあるところには、どのタオルでもいいので目立つタオルを出して、と参加を促した。そこが課題である。

・タオルは一枚一枚、町会長が数えられたのか？（田中委員）

⇒写真をL I N E で送ってもらい、何枚かを本部でカウントしていった。

私たちは災害時に自主防災組織のメンバーとして、災害にもかわらず人のために動くことになるが、その人たちの安全というのを意識していなかったというところに気づいた。安否確認を安全な場所で素早く簡単にできる取組はないかと考え、今後、各町会で、ここの場所で写真を撮ったら比較的たくさんの被害状況がわかるというシャッターポイント（場所）を決めていき、そこで撮っ

て素早く知らせるという取組をしていきたいと思っている。

(3) 区政会議の運営（部会・公募委員定数）について

- ・「新図書館等の活用に関する意見反映について」及び「公募委員について」にかかる事務局案を説明。（蔵本政策企画課担当係長）

⇒これから会議を始めるのであれば、Y o u T u b e がいいかはわからないが、可能であれば、会議を録画し配信する等、決定プロセスが公開されていくことを期待したい。（奥委員）